

## 長光寺 聖徳太子像

本願寺派 横浜市栄区小菅ヶ谷

### 長光寺由緒

東照山医王院と号しかつては天台宗の寺院で、開山の道意は、伊豆の豪族伊東祐親の孫にあたり、伊東祐清の子の祐光と伝えられている。祐光が祖父の菩提を弔うため出家し、父が崇拝していた薬師如来（文覚上人作）を本尊としたのが当寺創設のはじめ。

『菅谷山医王院長光寺旧記』には、その後、道意は『一切経』校合のため鎌倉に招かれた親鸞聖人に帰依し、「淳心房了源」と法名を賜わり、聖人が鎌倉常盤に逗留の際には日々訪ねていたとある。そして、相模国から甲斐国へご遊化の際にも同行したともある。

本願寺3世覚如上人が旧跡参拝のため東国に下向の際、当寺に逗留し、当時の住職了諦（了源の孫）



長光寺 聖徳太子像

は、覚如上人の教化により浄土真宗に改宗。覚如上人より「長光」の寺号を授かる。

当寺には聖徳太子像（鎌倉七太子像の1軀）は親鸞聖人自作と伝えられている。また、親鸞聖人から賜った光と壽の2字が書かれた光壽石二つがあります。